

開館5周年記念 肖像画と美人画

清方の美人画は特定の女性の姿を描いたものではなく、美人に託して四季折々の風情を描いた。一方肖像画は、ある人物に似せるだけでなく、背景や衣装に心を配り、その内面や生活まで描こうとしている。この美人画と肖像画に焦点をあてる。

会期 平成15年11月29日(土)～平成15年12月20日(土)(開館日数:19日)

総入館者数 1,281人(一日平均:67人)

出品作品

「慶喜恭順」「大蘇芳年」「先師の面影」「女役者糸八」「嫁ぐ人」「早春」「芸妓」
「明治の女(下絵)」「三遊亭圓朝像(下絵)」「伽羅(下絵)」

関連記事

平成15年12月1日・15日 開館5周年記念「肖像画と美人画」(広報かまくら)



リーフレット

開館5周年記念特別展 新春の風情

「明治風俗十二ヶ月」を押絵師永井周山が意匠化した「押絵羽子板」と新春の風情を展示した。

会期 平成16年1月4日(日)～平成16年2月8日(日)(開館日数:31日)

総入館者数 3,195人(一日平均:103人)

出品作品

「本朝二十四孝 十種香の段 八重垣姫 勝頼 濡衣」

昭和9年 絹本着色 軸 96.5×23.6 個人

「鯛」 昭和12年頃 絹本着色 軸 72.0×86.0 東京国立近代美術館

「初東風」 昭和17年 絹本着色 軸 63.2×72.4 東京国立近代美術館

「明治風俗十二ヶ月(押絵羽子板 永井周山作)」

関連記事

平成16年1月 1日／2月1日

鏑木清方記念美術館 開館5周年記念特別展「新春の風情」(広報かまくら)

平成16年1月 5日 鏑木清方記念美術館 特別展「新春の風情」(しろがね第9号)

平成16年1月23日 開館5周年記念特別展「新春の風情」(読売新聞)



挿絵画家として

清方は、父の経営する『やまと新聞』のコマ絵からはじめ、著名な新聞雑誌から挿絵、口絵、表紙絵の依頼を受けるようになった。挿絵画家時代の作品を中心に紹介する。

会期 平成16年2月24日(火)～平成16年4月18日(日)(開館日数:45日)

総入館者数 4,297人(一日平均:95人)

出品作品

【前期】平成16年2月24日(火)～3月21日(日)

「深沙大王」「金色夜叉の絵看板」

口絵:「沼の女(小栗風葉著「沼の女」(『新小説』))」「鸚鵡(『文藝俱樂部』)」

「三枚續(泉鏡花著『三枚續』)」

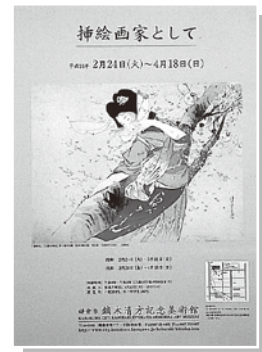
「小説家と挿絵画家(下絵)」

【後期】平成16年3月26日(金)～4月18日(日)

「一葉女史の墓」「笠の曲(娘道成寺)」

口絵:「胡蝶之曲(泉鏡花著「胡蝶之曲」(『新小説』))」「花吹雪(『文藝俱樂部』)」

「無憂樹(泉鏡花著『無憂樹』)」



関連記事

平成16年2月15日／3月1日・15日

開館5周年記念「挿絵画家として」(前期)(広報かまくら)

平成16年3月 1日 鏑木清方～挿絵画家として～(月間絵手紙3月号)

平成16年3月 鎌倉市鏑木清方記念美術館(江ノ電沿線ガイドVOL.44)

平成16年4月 1日 鎌倉市鏑木清方記念美術館(SONAN YOMIURI)

平成16年4月 1日・15日 開館5周年記念「挿絵画家として」(後期)(広報かまくら)

平成16年5月 1日 鎌倉、北鎌倉の美術館を訪ねる 鎌倉市 鏑木清方記念美術館(オブラ)

自作を語る

私の父は江戸末期の文人で、見やう見真似といふか、少年の私も読み物に興味が高く、子供なりにその方への関心が多くなつてゆくと、父はそれを欣ばなくて畫工になることを勧める。それが具體化し、父の経営する新聞に挿絵をかいた芳年とその弟子、年方のいづれかに就くこととなつて、私は後者を選んだ。

挿絵畫家を志したのも、これが文事により近いからのことであつた。よき友の文人、岡鬼太郎、山岸荷葉の助力を得て、覺束なくも雑誌や新聞に挿絵の地歩を固め得たのは成年以前であつた。

(『鏑木清方文集一 制作餘談』より一部抜粋)